

遊々の森の活動を振り返って

～「多摩市民の森・フレンドツリー」～

中部森林管理局 南信森林管理署 一般職員 新川 雄大
多摩市立八ヶ岳少年自然の家 課長代理 五味 直喜

1 課題を取り上げた背景

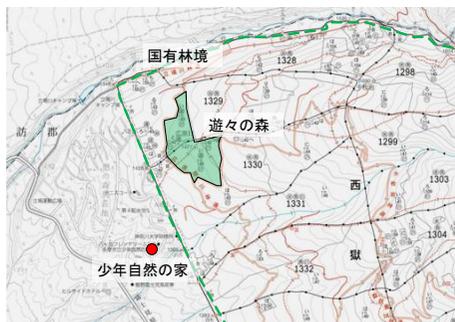
南信森林管理署と東京都多摩市は、「多摩市民の森・フレンドツリー」として遊々の森を富士見町の西嶽国有林内に設定しており、同町内にある多摩市立八ヶ岳少年自然の家(以下、少年自然の家)が移動教室で訪れる多摩市の小学校6年生を対象に体験林業を行っています。

この活動が今年度で10年を迎える中、今年度の間伐・間伐材利用コンクールにおいて林野庁長官賞を受賞しました。このことから、これまでの体験林業活動について報告します。

2 取組の経過

遊々の森は、少年自然の家より徒歩20分の西嶽国有林1329い・1330い林小班に設定されています。

体験林業では、間伐作業を行います。当署職員が間伐に関する森林教室を行った後に、10人程度の班で1本の木を伐倒します。立木の伐倒体験がない子どもたちなので、上手く伐倒できると拍手や歓声が上がると貴重な体験となっています。体験林業では、伐倒から玉切りそして林道への搬出まで行うので、一連の作業を体験する中で、森林整備や協力して作業を行うことの重要性を



遊々の森位置図

学んでいます。このほかにも少年自然の家の職員による指導により森あそびや木工教室等の自然体験プログラムも行われており、子どもたちは森林で過ごす楽しさを体験しています。

遊々の森では小学生の体験とともに、多摩市のボランティア団体「フレンドツリーサポーターズ」による間伐を中心とした森林整備も行われています。両活動の間伐材は、毎年10月に関係団体によるボランティア活動で木質バイオマスエネルギー資源として集められ、ペレットストーブの原料になっています。



体験林業の様子



ボランティア活動による
間伐材搬出の様子

3 実行結果、まとめ

今年度活動を行った学校からは、「都会では絶対に体験できない林業体験ができ、改めて森林整備の大切さを実感できた。」「都会の現代の子ども達には体験のない林業を実体験を通して学ぶことができた。」といった感想をいただき、これまでのアンケートでも好評をいただいております。なぜ木を切らなくてはならないのか、木を切ると森林はどのように良くなるのかといったことについて、理解をしてもらえたのではないかと思います。

今後も、少年自然の家と当署との連携を密にし、訪れる子どもたちに林業について少しでも理解してもらえるような活動を継続していきたいと考えています。